

## 利根町地域公共交通計画の全体像

## 利根町が目指す まちの姿

- 総合振興計画では、まちづくりの将来像を「ともに創ろう みんなが住みたくなるまちとね」とし、住民協働でまちづくりを推進するとしている。
- 都市計画マスタープランでは、「利便性の高い都市形成に向けた道路・交通ネットワークの形成」が求められている。

## 利根町地域公共交通の課題（案）

- ① 町内施設（商業施設・医療施設）への移動手段の拡充
- ② 町外施設（鉄道駅・主要医療施設）への移動手段の拡充
- ③ 公共交通の利用促進
- ④ 輸送資源の活用検討
- ⑤ 高齢化社会に対応した移動支援
- ⑥ 福ちゃん号およびふれ愛タクシーの利便性向上
- ⑦ 便利で効率的な公共交通ネットワークの構築

## 利根町地域公共交通の現状

- 人口減少、高齢化が進行しており、今後も人口減少が続くと推計されている。
- 交通事業者においては、ドライバー不足やドライバーの高齢化を抱えている。
- 布川地区や羽野台団地、早尾台団地、もえぎ野台に人口が集積しつつ、町全域にまばらに居住地域が広がっている。
- 商業施設や医療施設、公共施設も町内に点在している。
- 買物や通院、通勤・通学において、町外施設（取手駅、布佐駅、タイヨー竜ヶ崎店、JAとりで総合医療センター等）への移動もみられる。
- 公共交通の利用者は減少傾向にある。
- 利根町の縁辺部周辺を龍ヶ崎市コミュニティバス・取手市コミュニティバスが運行している。
- 全国では、地域主体の交通サービス導入例もみられている など

詳細は次ページを参照

## 基本理念（案）

みんなの生活を みんなで支える  
持続可能な地域公共交通ネットワーク  
の実現

## 計画目標（案）

- ① 町内の移動を支える公共交通サービスの提供  
評価指標（令和6年度に検討）
- ② 町外への移動を支えるサービスの提供  
評価指標（令和6年度に検討）
- ③ スマートに連携する公共交通サービスの提供  
評価指標（令和6年度に検討）
- ④ 地域とともに支える公共交通サービスの提供  
評価指標（令和6年度に検討）
- ⑤ 高齢者の生活を支える公共交通サービスの提供  
評価指標（令和6年度に検討）

## 施策・事業（イメージ）

## 施策① 公共交通ネットワークの再編

- ・ 路線バスの見直し  
⇒ 低利用区間の見直し  
⇒ 利用区間における維持
- ・ 福ちゃん号の運行効率化
- ・ ふれ愛タクシーの利便性向上  
⇒ AIデマンドシステムの導入検討 など
- ・ 小型モビリティの検討  
⇒ シェアサイクルや  
グリーンスローモビリティ

## 施策② 交通モード間の連携強化

- ・ 交通結節点における乗継環境整備  
⇒ 福ちゃん号から路線バス  
⇒ 自家用車から路線バス など
- ・ 共通乗車券の導入検討

## 施策③ 輸送資源の活用検討

- ・ 近隣市町の交通サービスの乗り入れ検討
- ・ 地域主体の公共交通サービスの導入検討 など

## 施策④ 公共交通の利用促進

- ・ 総合交通マップ等の作成
- ・ 周知チラシ等の充実
- ・ 乗り方教室の開催
- ・ モビリティマネジメント

# 利根町地域公共交通の現状および課題（案）

# 基本理念（案）

## 利用者（生活者）の視点でみる課題

みんなの生活を みんなで支える

### 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築

現在は、町内を運行する多様な公共交通サービスがみなさんの生活を支えています。公共交通サービス同士のつながりを強化することで、みなさんの生活をより強固に支えていきます。一方で、社会情勢の変化等により、行政・事業者だけで公共交通サービスを維持することが難しい状況にあるため、地域住民やその他関係者とも一丸となって公共交通サービスを支えることを目指します。

- ① 町内施設（商業施設・医療施設）への移動手段の拡充  
町内において生活関連施設が立地しており、町民アンケート調査では買物や通院における町内施設までの移動も確認されていることから、町内施設までの移動をより便利にするための検討が必要であると考えます。
- ② 町外施設（鉄道駅・主要医療施設）への移動手段の拡充  
町民アンケート調査では、買物・通院・通勤・通学における町外移動が多く、町民の生活圏が町外にも及んでいることが確認されました。具体的な行き先としては、鉄道駅（取手駅、布佐駅など）や大型商業施設（龍ヶ崎市タイヨー、ヤオコー藤代店等）、医療施設（JAとりで総合医療センター、済生会病院等）への移動が多い状況です。  
これらのことから、町外施設までの移動手段の拡充が必要であると考えます。

# 計画目標（案）

- ① 町内の移動を支える公共交通サービスの提供  
自宅から町内主要施設や交通結節点等への移動手段を提供することで“町民の買物および通院を支える”
- ② 町外への移動を支える公共交通サービスの提供  
町内主要拠点や交通結節点等から町外主要施設（鉄道駅や医療施設など）までの移動手段を提供することで“町民の買物・通院・通勤・通学を支える”
- ③ スマートに連携する公共交通ネットワークの構築  
町内外の交通サービス連携による利便性向上を図り“生活を支える持続可能な地域公共交通ネットワークを構築する”
- ④ 地域とともに支える公共交通サービスの提供  
行政（利根町）・交通事業者だけでなく、地域住民や近隣自治体とも連携することで、公共交通サービスを“みんなで支える”  
公共交通を利用することで財政面で支える。公共交通の担い手となることで人材面で支える。
- ⑤ 高齢者の生活を支える公共交通サービスの提供  
自家用車を持たない高齢者でも自由に移動できる公共交通サービスを提供することで、“高齢者の生活を支える”

## 交通サービス提供者（交通事業者・行政）の視点でみる課題

### <特に交通事業者に関する課題>

- ③ 公共交通の利用促進【利用者数を増やす】  
公共交通利用数の減少に伴い、運行便数も減少している状況です。このままでは持続的な公共交通サービスの提供が難しくなるため、利用促進を行う必要があると考えます。
- ④ 輸送資源の活用検討【人手を確保する】  
交通事業者におけるドライバー不足やドライバーの高齢化、さらには「働き方改革関連法の施行（2024年4月～）」によって公共交通の担い手が不足している状況です。このままでは持続的な公共交通サービスの提供が難しくなるため、近隣自治体のコミュニティバスや地域主体の交通サービスなどを活用しながら、公共交通の担い手を確保する必要があると考えます。

### <特に行政に関する課題>

- ⑤ 高齢化社会に対応した移動支援  
本町においては、人口減少・高齢化が進行しており、今後もその傾向は続くと考えられています。現状では、75歳以上の町民においても自家用車で移動ができている状況ですが、将来的に自家用車を運転できない高齢者が増えていくことが想定されます。これらのことから、高齢者の移動支援を検討する必要があると考えます。
- ⑥ 福ちゃん号およびふれ愛タクシーの利便性向上  
福ちゃん号やふれ愛タクシーが高齢者の移動を支えている一方で、公共交通利用者アンケート調査では、満足度が約30%であること、往復利用がされていないこと、増便などの要望が多いことなど、両サービスにおいても改善の余地があることが確認されました。このことから、さらなる利便性向上に向けた検討および取り組みが必要と考えます。
- ⑦ 便利で効率的な公共交通ネットワークの構築  
都市計画マスタープランに示すとおり、本町では「利便性の高い都市形成に向けた道路・交通ネットワークの形成」を図るとしています。現在では、路線バス・福ちゃん号・ふれ愛タクシー等によって公共交通ネットワークが形成されており、一部の交通結節点では乗継ダイヤの調整なども行われています。  
しかし、交通事業者ヒアリングでは「公共交通の乗継利用が少ない」という状況もあり、町内の公共交通を一体的に見直し、より便利でより効率的な公共交通ネットワークを構築する必要があると考えます。